

JAXA の向井利典 技術参与が資料 25 - 2(JAXA のプロジェクト進捗確認)を説明した後、多少の質疑応答があった。(本年 4 月に定めた、プロジェクトの四半期毎の進捗確認に基づき、現在開発フェーズにある 8 個のプロジェクトを理事長が直接面談による報告を受け、中止などの重大な変更を検討すべき状況のものが無いことを確認した。一部、業務量の増大に伴う人員不足は、人的リソースの再配分で対処する。)

松尾:ご承知のことと思いますが、此れはスターティングポイントとして、改めて見た結果、今、進められる状況にあると云うご結論だと思っております。この後は、LUNAR-A その他の件も含め、中間評価の重要性を我々認識しておりますので、適宜、其れを実施していきたいと云う風に考えると云うことでございます。

この件、何か質問、御座いますでしょうか。特に、個別のものに付きましては、JAXA の方で、現在、そう判断なさっている事に留めておきたいと思えます¹。

青江:正に、今、委員長言われたところ、一つ JAXA 側には良くお願いしておかなければいかん事、「中間評価と云うものをタイムリーに機を失することなくきちんとやらなければならない。」と云うのが、LUNAR-A の時の一つの教訓、宇宙開発委員会側における教訓であった。今回、こういうことで以っ

て、「中止等重大な変更を下さなきゃいかん様な状態には無い。」と云うことを確認いただいたし、其れに就いての全体的な状況に就きましても、報告も頂いたと云うことなのですが、これから先、正に、タイムリーに中間評価を行う。その機を失することなく。と云うことに、良く留意を頂いて、こちらにも注意をしておきますが、そちらからも気落ち(?)することなく、ちゃんと、しかるべきタイミングで、お話を頂くと云うことに就きましても、よくよくご留意頂きたい。云う風に思うわけであります。

JAXA 向井:はい、良く承知しております。よろしく申し上げます。

池上:今回、フォーマルな形でやるのは初めての訳ですね。で、JAXA の中で、こういうことをやることによって、何か、こう、マインドが変わったとか、マネージメントって云う点で、或は、混乱があったとか云う、そう云うことは?

JAXA 向井:この際に、私は理事長の傍に居た訳ですが、一番大きなポイントは、プロジェクトマネージャが直接理事長と話をし、状況の確認をして、議論をすると云うのは、プロマネ自身のモチベーション、インセンティブと云うか、トップに理解してもらえると云う意味で、あの一、そう云う効果もあるのではないかと思います。実際そう云う場面にも感じる事が有りました。報告用のレポートは、解り易く一枚にまとめているが、場合によっては結構細かい議論もその場で行なわれましたので、そう云う点では非常に良いかなと思えます。そう云う意味で、先程、青江委員が仰いましたようなポイントですね、若し、となれば、早めに手当てをするな

¹ 宇宙開発委員会(推進部会)の評価が別に行なわれるのであるから、此処では細かいことを審査する必要は無い。

り、対策を考えるなり、或は、此处でご報告して中間評価をしていただくなり、そう云うスキームは出来た²のではないかと考えています。

池上:何か問題があれば、我々とドクジンと云うような、まあ、今回はそう云うことが無い?

JAXA 向井:はい。

池上:これ以上何か此处で仰るような事は御座いませんか? 本当は此れは大変だとか。其れは特に? 取り敢えずは、余り心配する必要は無い?

JAXA 向井:ええ、現在のところは、そう思っています。

森尾:3ページの「確認結果」に「一部のプロジェクトに散見される業務量の増加に伴う人員の不足等については、気候横断的に人的リソースの再配分を行なう等により対処する。」と云う意味は、従来は往々にして、まあ、物事予算通りに行かないと云うことは起こるわけで、その場合に、予算を超過

しそうだとか、計画そのものを延期せざるを得ないとか、そう云うことで業務の超過量を吸収してきたように思うのですが、今回は、そう云うことなく、予算的にも、マネージできる範囲で、計画も遅れること無さそうだと云うような理解で良いのか。

JAXA 向井:予算と云うような問題ではなく、そう云う風に。

松尾:まあ、大変結構なことだと思いますが、今迄、プロマネの方は、どなたとお話になっていたのですかねと云う疑問が出てきます。

JAXA 向井:あの、...(遮られる)

松尾:いや、お答えは要りません。

松尾:どうも有難う御座いました。

² 「スキーム」と云うようなものではなく、「JAXAの理事長が、組織の責任者として、自らプロジェクトの進捗状況を確認する」事が行われたわけで、今回は、「計画の大幅な変更を必要とするような、大きな問題は無かった」事が報告されたのである。

一般的に、組織の体質が悪化すると、このように内部監査を行なっても、問題解決が先送りされるだけになるので、この後に続く、「本当に大丈夫なのか」と云う種の質問がしたくなるのであろうが、制度が発足したばかりのものに対して、強い不信感を表すように誤解されることは、避けておいたほうが良かったのではないだろうか。